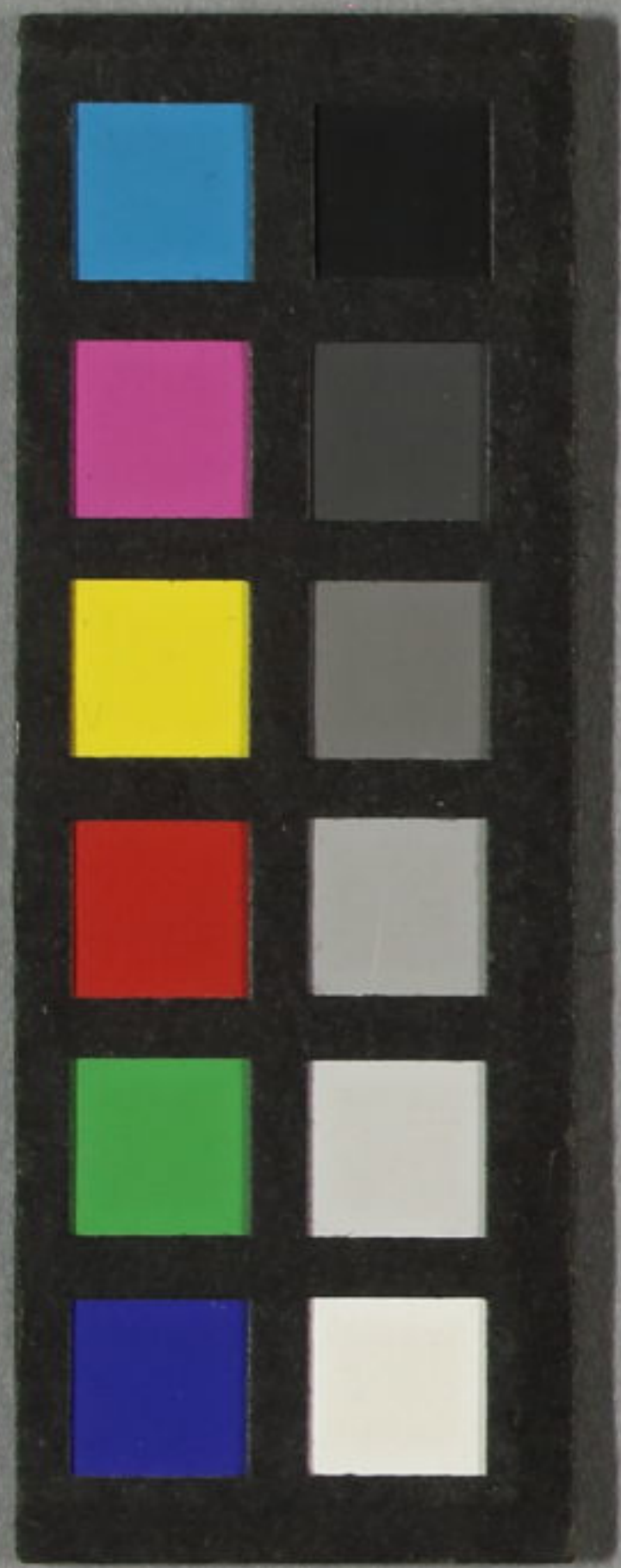


^13
3688
2



^13
3688
1





^ 13
3688
1



門 へ13
號 3688

像士英兩中冊



岩倉外記左門

洛陽三

三聯堂

大矢

數の
事ハ其任
當者通矢の

檢證と取

金銀の

摩と

受て日下關山の

玉崎江文太

号小預三

とろろ

京三
拾三
間堂

奉納

大願成就 播列曾根侍臣

謹上再拜

文化巳初春 岩倉外記左門直美

大 矢 數
譽 仇 討

奉納

大願成就 播列曾根家臣

謹上敬白

文化巳初陽 玉崎江文太信正

春亭圖

一九著

京三十三間堂由来 在大矢移々監錫

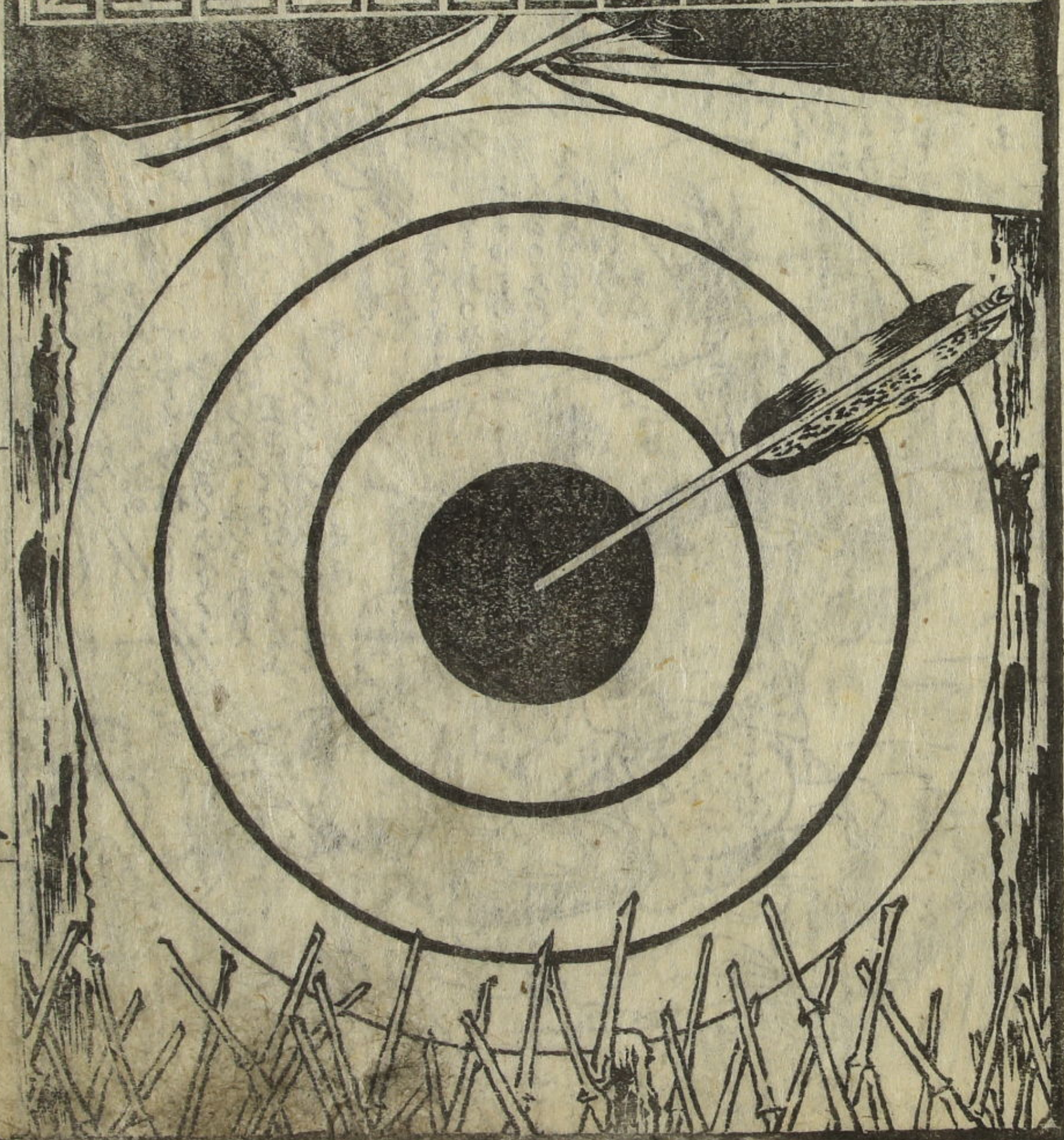
蓮華王院三十三間堂ハ後白河院の御願に
 備前守忠実奉行し千體御書を建たせ
 六層に成ると爲て柱と本尊八千手觀音の
 二八部衆各檀上安置し又一千體の觀音八堂
 内左右不あり栞後白河の法皇ハ常小頭痛の
 疾中世ハ医療さむぐちじらも更小を強
 或時熊野御幸ありて皇を祈せぬ不権現は
 宮中ハ洛陽圓幡堂ハ天竺より妙医
 如來不治療と交ぬて皇を依て永曆二年二月廿二日
 因幡志守り多病ありひきこり祈皇の
 疾異僧忽然して又告て白は皇の前生ハ



坊より入る海内を行跡して伴道と修行を
 切あり今帝位は昇ありさねも前生の
 以て栞を岩田川の水底ありて頭より柳の樹
 此根をわせたると皇の法と取とて苦悩と免る
 皇はくく香水を以て法皇の御項に洒と
 髪さやう願て之所をわせし欠あり河原
 こそ海と得る則これと觀音の頭中ハ
 間堂を建たせと皇の身と堂の
 得長壽院を所造堂ありて千體の觀音を
 安置し後ありて蓮華王院とあり又



弓之曲 乃宣 百駘 百中 以通



大矢救の盪錫ハ新羅聖観音寺の僧梅之坊新
 術之妙マハ坂の青塚の的場入通入塚入不當寺の
 後堂より休之射とありしやうておれうて偶緒家
 の英臣出て新術の是多目とありしやうて入當所よりさう
 矢の檢證と出しその一と出するかのあり金浪の魔
 言とありし中早野氏和依氏の両雄とさう矢の名
 譽とありし堂上の標板に連綿とて雷谷
 勢ありしやうて不昇平楽園の心をなす武門乃
 龜津とありしやうて

つもの
 己蒼陽 通あや町の美とを播
 十返舎一九識(貞)



第二回

いさぎよげんかせせむしはるゝ
 生むままのちねのいせの
 くのんかゝうていさうい
 さにのちまめあめふれさ
 かへんこのくちんちま
 ちろねねもまもるさ
 まつこかざれいさかせん
 こちりあつちのめいん
 うそあめてむきまんの
 こゝろあつちいさかせん
 ひちげきかんささう
 ろろのさうせん人をあつち
 そのいさかせんかまやま
 ちねれどもあいのさう
 かきまのさきん
 つらなるあめさ
 そうまもあま
 ちのあま
 さんけいせいかん
 まつちこのさかんか
 ゆいのさつちさるばる
 まつちちねあつちあ
 けつちのさかんあつち
 ちりあつちのさかんあつち
 つらなるあめさ
 さんけいせいかん
 まつちこのさかんか
 ゆいのさつちさるばる
 まつちちねあつちあ
 けつちのさかんあつち
 ちりあつちのさかんあつち
 つらなるあめさ
 さんけいせいかん
 まつちこのさかんか

さういさかせん
 まつちこのさかんか
 ゆいのさつちさるばる
 まつちちねあつちあ
 けつちのさかんあつち
 ちりあつちのさかんあつち
 つらなるあめさ
 さんけいせいかん
 まつちこのさかんか

さきもこのいさかせん
 まつちこのさかんか
 ゆいのさつちさるばる
 まつちちねあつちあ
 けつちのさかんあつち
 ちりあつちのさかんあつち
 つらなるあめさ
 さんけいせいかん
 まつちこのさかんか

さきもこのいさかせん
 まつちこのさかんか
 ゆいのさつちさるばる
 まつちちねあつちあ
 けつちのさかんあつち
 ちりあつちのさかんあつち
 つらなるあめさ
 さんけいせいかん
 まつちこのさかんか



あつちのい
 こころあや
 けいふけい
 さんごのい
 りろがはまの
 さのこのち
 つがきま
 せーとい
 せいのま
 けいふけい
 うちささ
 つのま
 ざんを
 おのん
 おひて
 むのま
 ぐりて
 ぐと
 なる
 ぞう



あつちのい
 こころあや
 けいふけい
 さんごのい
 りろがはまの
 さのこのち
 つがきま
 せーとい
 せいのま
 けいふけい
 うちささ
 つのま
 ざんを
 おのん
 おひて
 むのま
 ぐりて
 ぐと
 なる
 ぞう





まあつらう
はげきりんその
あひそりらのハ
のせうのちられ
あふらんおふ
せうれあふ合せ
まのせいのせ
やまのふま

おちひやう
あひそりらのハ
のせうのちられ
あふらんおふ
せうれあふ合せ
まのせいのせ
やまのふま

あまが
あまが
あまが
あまが
あまが
あまが



あまが
あまが
あまが
あまが

あまが
あまが
あまが
あまが
あまが
あまが
あまが
あまが
あまが
あまが

大矢数前編終

三十三巻

春亭画

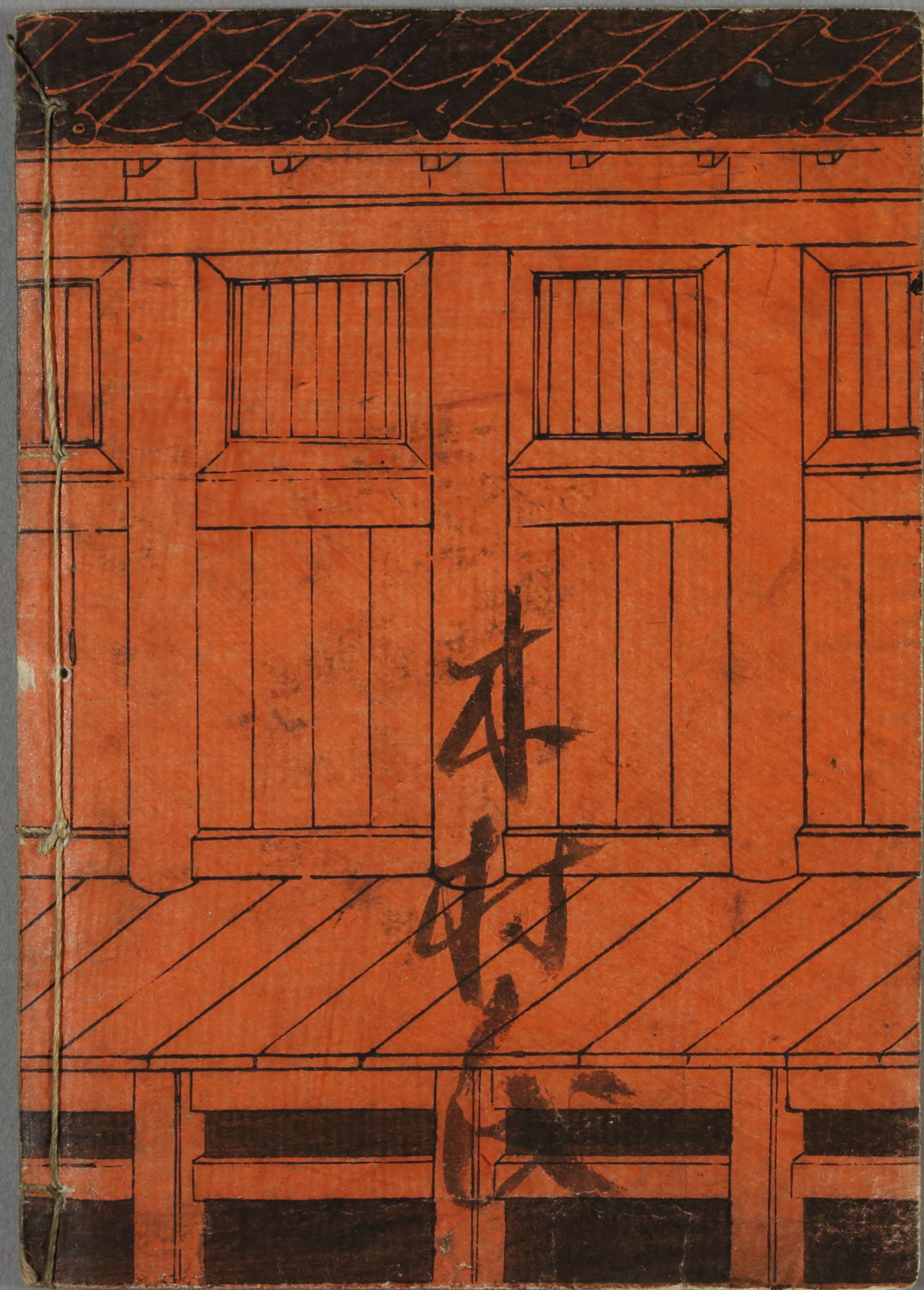
十返入舎一九着

此の巻は、春亭の画を、
 大矢数の前編に、
 終りに、
 添へて、
 刊行せしむ。



此の巻は、
 大矢数の前編に、
 終りに、
 添へて、
 刊行せしむ。







^13
3688
2





^13
3688
2

大矢敷 第四回 後編上

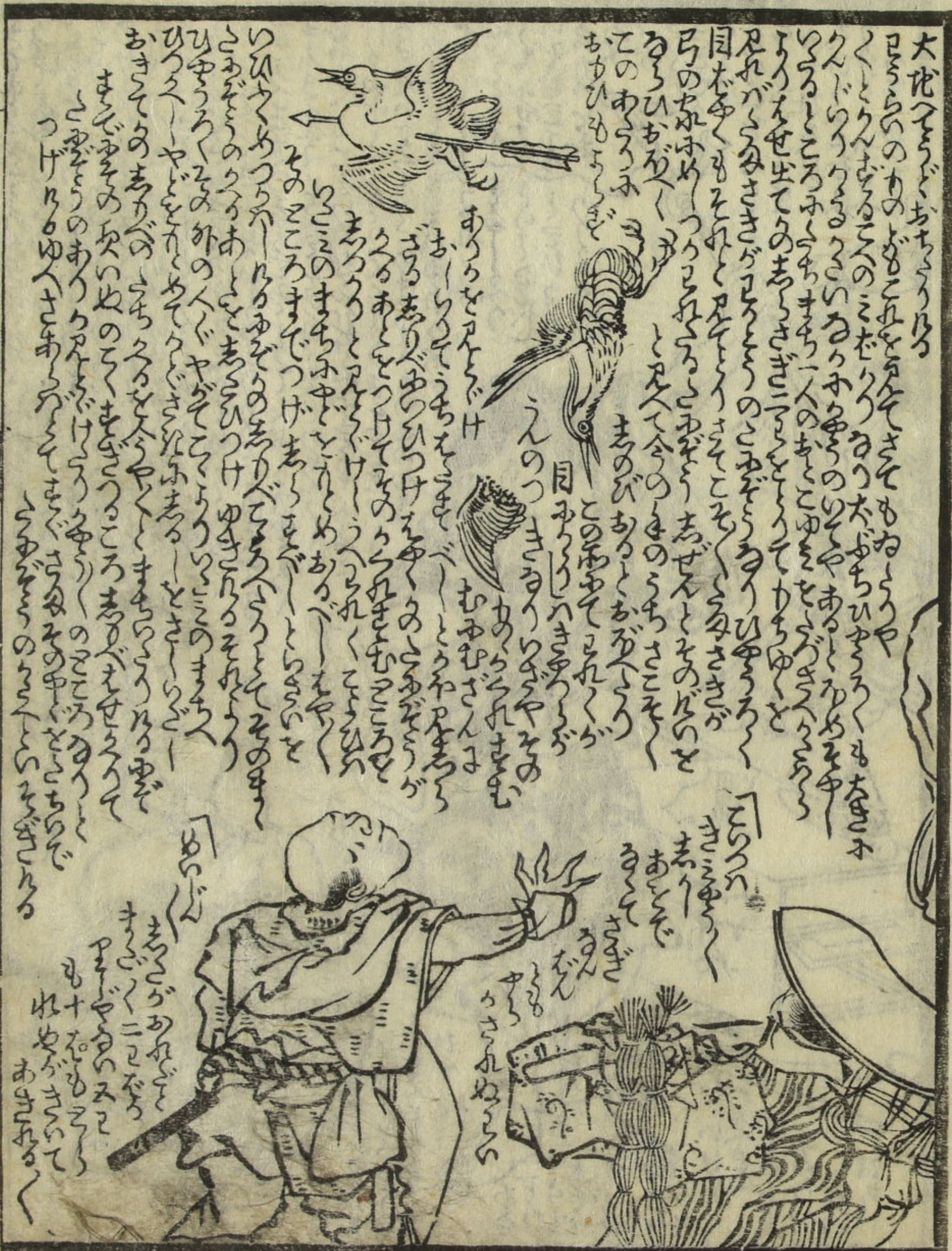




大化のまじりてあつたは
このころのまじりてあつたは
このころのまじりてあつたは
このころのまじりてあつたは

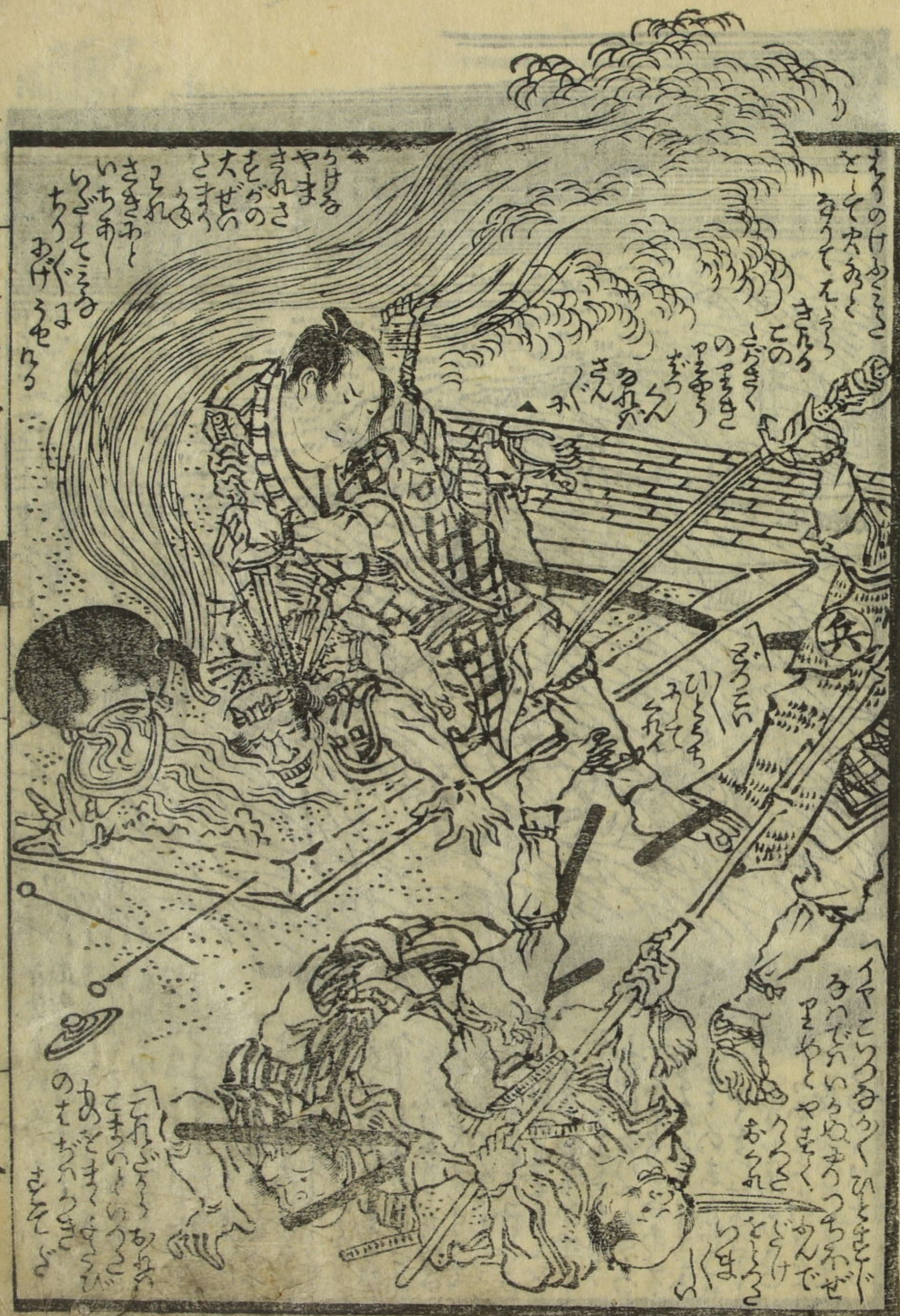
あつたは
このころ
まじりて
あつたは
このころ
まじりて
あつたは
このころ
まじりて
あつたは
このころ
まじりて

あつたは
このころ
まじりて
あつたは
このころ
まじりて
あつたは
このころ
まじりて
あつたは
このころ
まじりて



大化のまじりてあつたは
このころのまじりてあつたは
このころのまじりてあつたは
このころのまじりてあつたは
このころのまじりてあつたは
このころのまじりてあつたは
このころのまじりてあつたは
このころのまじりてあつたは
このころのまじりてあつたは
このころのまじりてあつたは
このころのまじりてあつたは
このころのまじりてあつたは

あつたは
このころ
まじりて
あつたは
このころ
まじりて
あつたは
このころ
まじりて
あつたは
このころ
まじりて
あつたは
このころ
まじりて
あつたは
このころ
まじりて
あつたは
このころ
まじりて
あつたは
このころ
まじりて
あつたは
このころ
まじりて



さあ、この山を
あつて、さあ、
さあ、この山を
あつて、さあ、
さあ、この山を
あつて、さあ、

さあ、この山を
あつて、さあ、
さあ、この山を
あつて、さあ、
さあ、この山を
あつて、さあ、



さあ、この山を
あつて、さあ、
さあ、この山を
あつて、さあ、
さあ、この山を
あつて、さあ、

さあ、この山を
あつて、さあ、
さあ、この山を
あつて、さあ、
さあ、この山を
あつて、さあ、

第五回



Handwritten Japanese text in vertical columns, surrounding the illustration of the woman with the sword. The text is written in a cursive style.

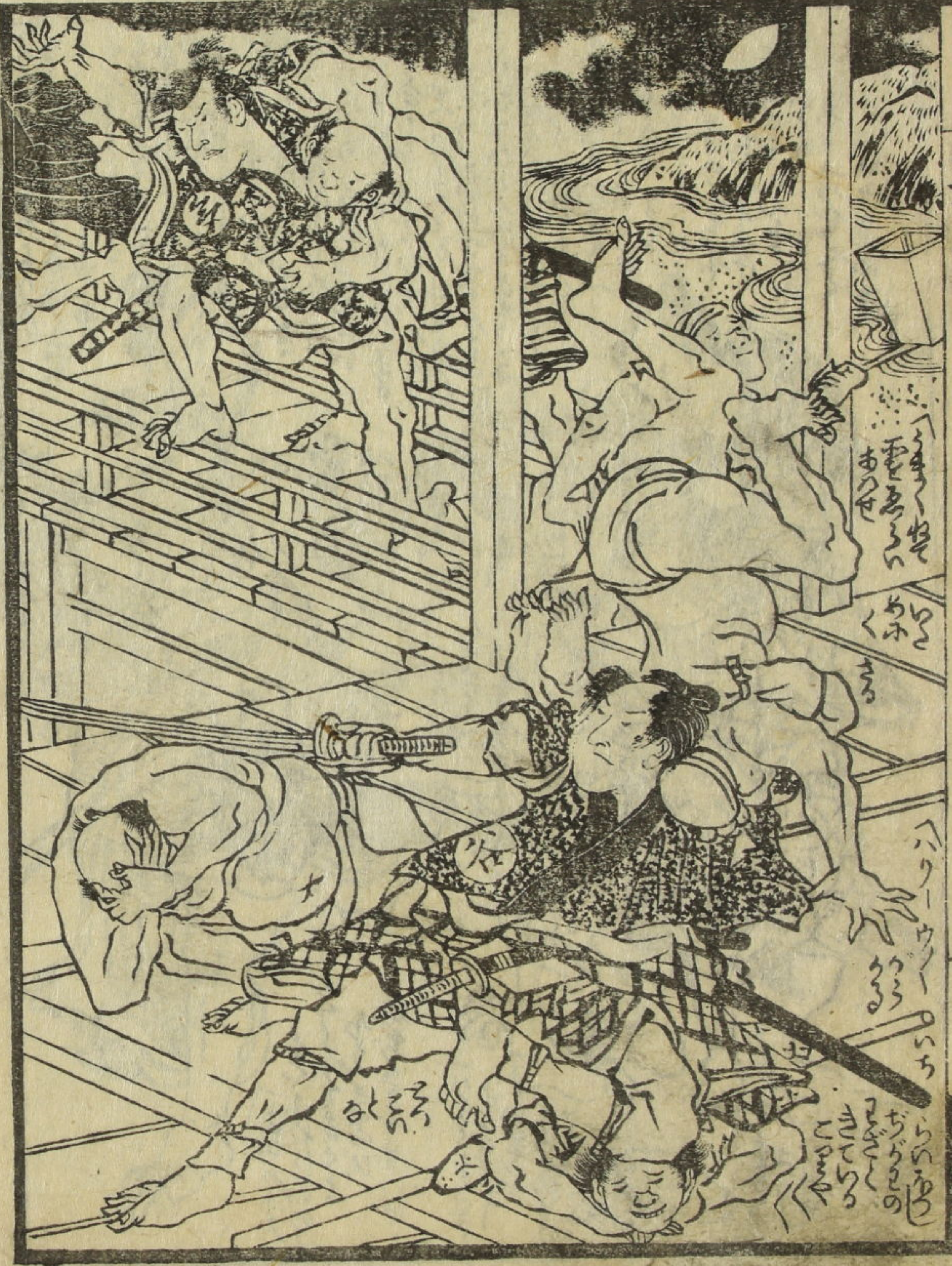


Handwritten Japanese text in vertical columns, surrounding the illustration of the woman and child. The text is written in a cursive style.



Vertical text on the left margin of the bottom page.

Vertical text on the bottom margin of the left page.



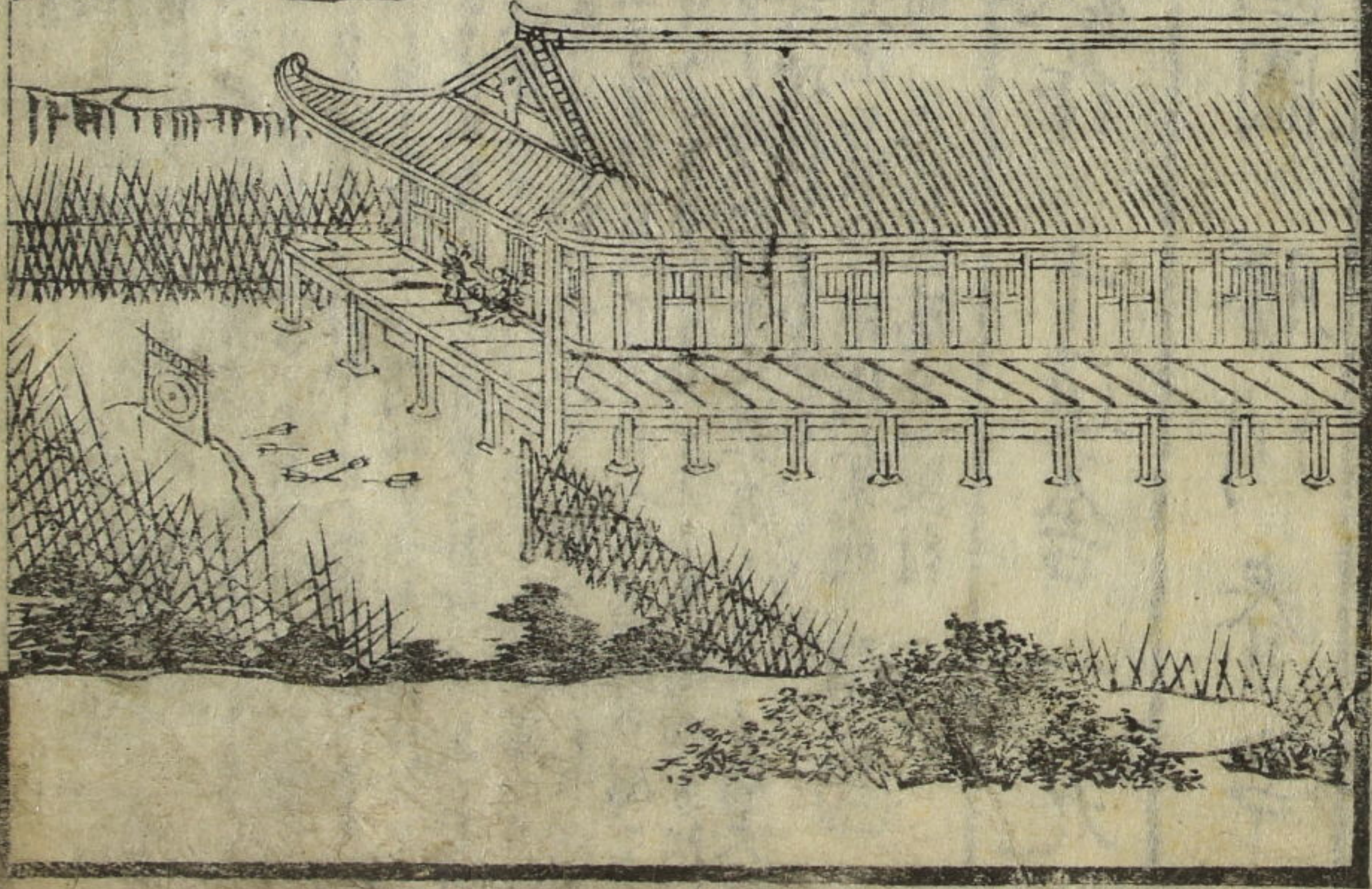


三十三の山
 山内の寺に
 多くの人々が
 集まりて
 祈りを捧げ
 たり
 且つ
 山の神に
 感謝の
 舞を
 奉る
 事あり
 此の舞は
 古の
 習俗に
 由り
 たり
 且つ
 山の
 神に
 祈りを
 捧げ
 たり
 此の
 祈り
 は
 古の
 習俗
 に
 由り
 たり

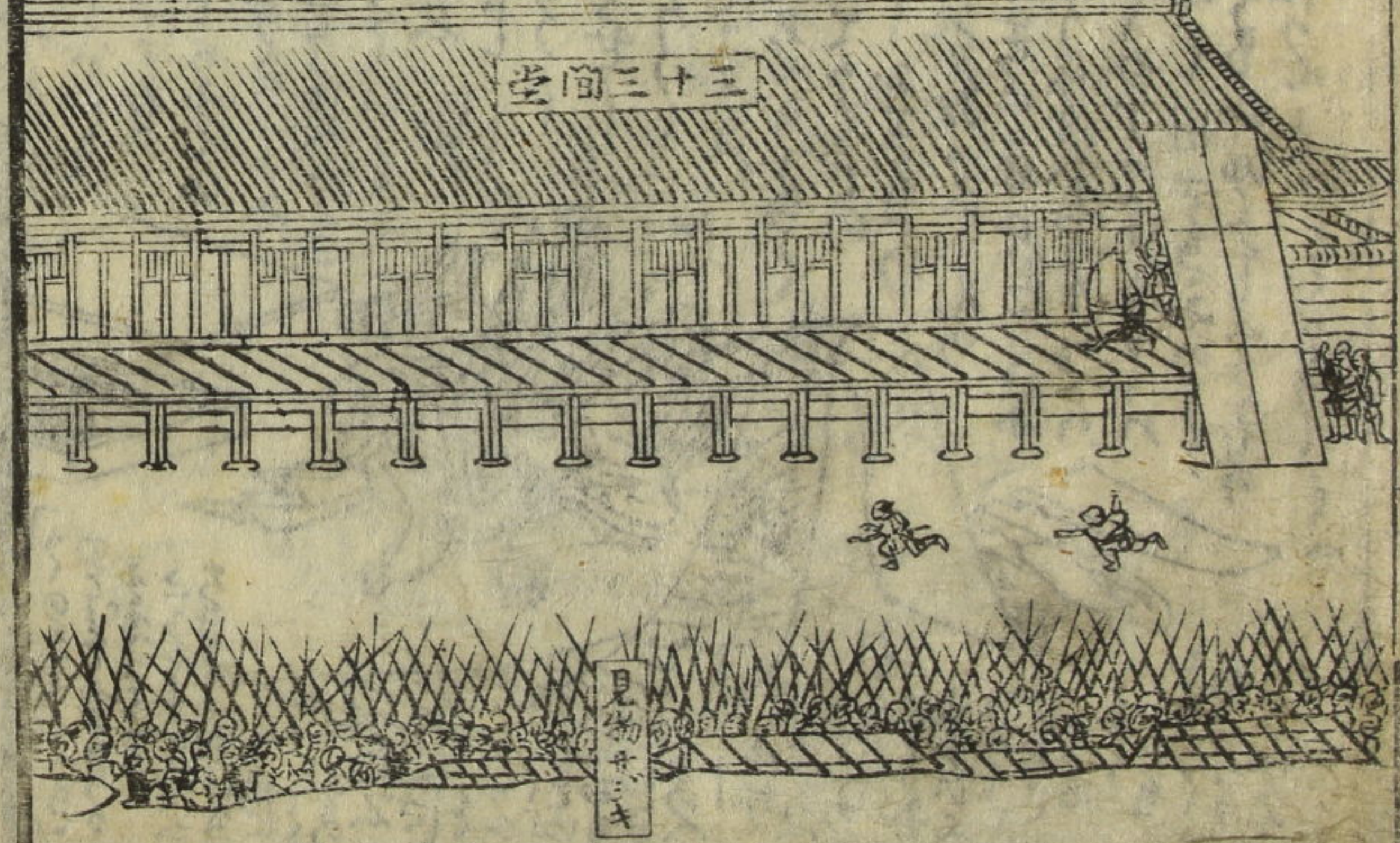
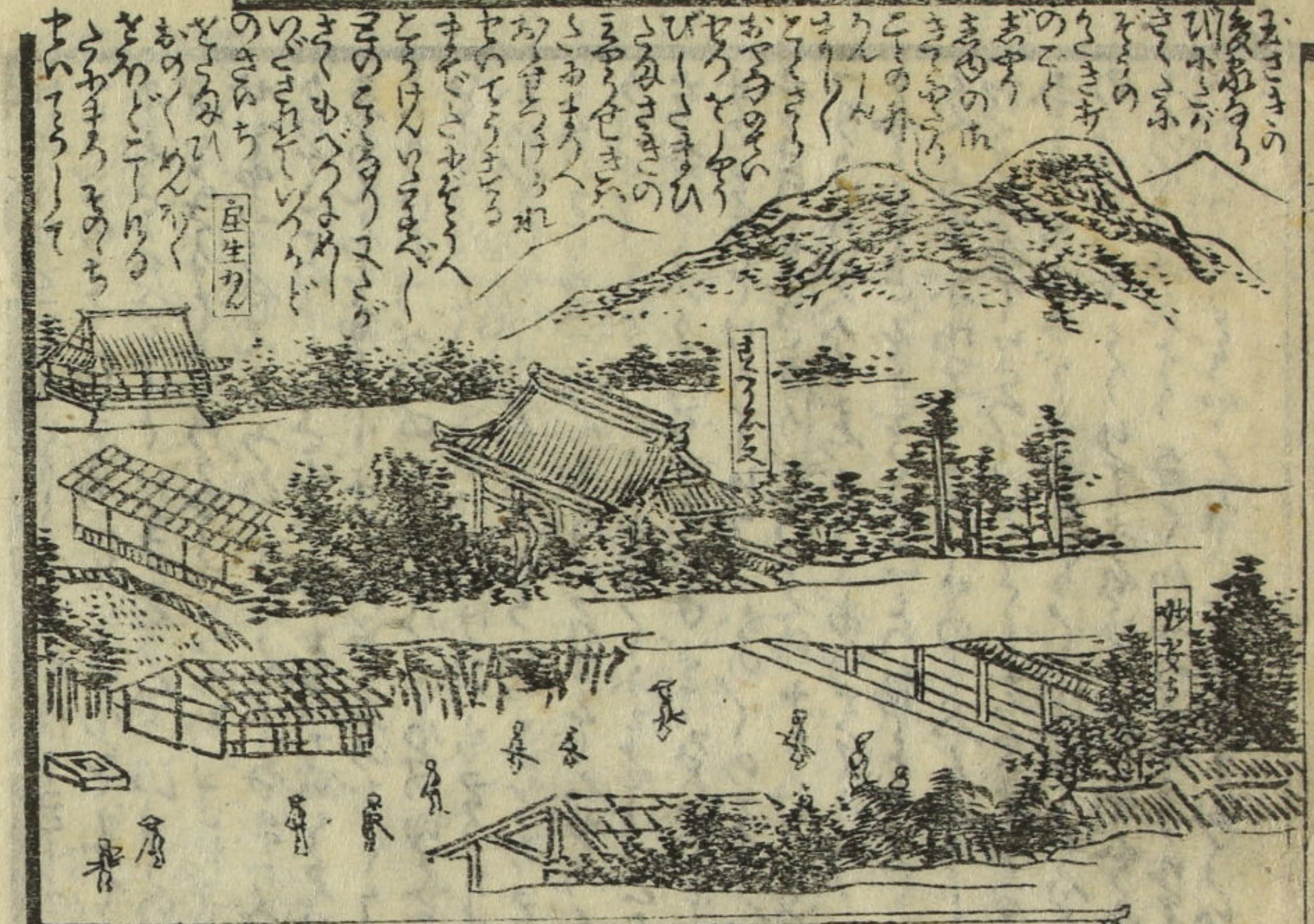


山神の
 舞
 且つ
 祈り
 の
 舞
 且つ
 祈り
 の
 舞

蓮花王院三十三間堂大矢敷之番
 蓮花王院三十三間堂大矢敷之番
 ... (vertical text columns) ...



蓮花王院三十三間堂大矢敷之番



蓮花王院三十三間堂大矢敷之番
 ... (vertical text columns) ...

蓮花王院三十三間堂大矢敷之番
 ... (vertical text columns) ...

